

## 秋いろいろの翅

ふと見上げると  
すいにまれそうな空

そのあざやかな青色に  
翅をきらめかせて  
低く 高く 飛び交う とんぼ

こうべを垂れて  
黄金色に染まる稲穂の群れ

暑かった今年の夏も  
いつの間にか通り過ぎ  
豊かなみのりの季節がやってきた

さわやかな秋風に  
ピュアな感性を育て  
小さな自分の秋をみつけに行こう

## 目次

- P 1 味あらかると
- P 2 子どもの心を耕す読書のすすめ  
さんやそう
- P 3 虹のひろば
- P 4 ~ 5 知的な新聞あそびに大興奮  
子どもぴぴっとクラブ
- P 6 特集：新聞づくりQ & A
- P 7 まうすりいだより
- P 8 秋だより・編集後記



## 味あらかると

平成十六年四月八日、北上市西部学校給食センターが開所した。最新設備で作った給食はとてもおいしく、安心して試食することができた。

平成十六年五月十四日、「学校教育法等の一部を改正する法律」が、第百五十九回通常国会で可決・成立し、学校におかれる教育職員として栄養教諭が設置できるようになった。

栄養教諭制度は、「食」の専門家である学校栄養職員に教諭の身分を与えることで、教室で食の指導ができるようになるものである。

栄養教諭が創設された背景には、家庭での食生活が乱れる中で、子どもたちに望ましい食習慣や自己管理能力を身につけさせることが急務になっている現実がある。

そこで、学校給食を生きた素材として効果的な食の指導を行える職種として、栄養教諭の創設が必要だと判断した。具体的には、栄養職員の職務に加えて、児童・生徒への個別的な相談指導、教科や特別活動などでの教育指導、食に関する教育指導の連携・調整など、食に関する教育のコーディネーター（中教審答申）役を担うことになる。

食の充実が老若男女すべての人の緊急課題でありひとことではない。

同じころ、「コミュニティ・スクール（地域運営学校）」の制度も可決・成立した。

# 子どもの心を耕す読書のすすめ

「子どもの心を耕し育てる読書の基本は、幼児期からの読み聞かせにある」といわれるように、幼児期からの読み聞かせは、子どもの成長にとって欠くことのできないものだと思います。読み聞かせをしている時の楽しみの一つは、子どもたちが作品の中に入り込み、いろいろな反応をして、自分の思ったこと、考えたこと、気づいたことをどんどん話してくれることです。そんな時、子どもたちは本を通していろいろなことを学び成長していることを実感します。しかし、読み聞かせをしていて、どんな本をどのように読み聞かせ、どんな終わり方を 等々迷うことも多々あります。特に「終わり方で子どもの読書に対する意欲も違ってくるのでは？」と思います。

## ……………読み聞かせの終わり方あれこれ……………

### 読み聞かせの終わり方・ 読書意欲と読み聞かせ4

読み聞かせは、親子でやったり、数人の子どもを対象にやったりといろいろな場合があり、子どもの反応もさまざまで終わり方もいろいろです。

〈読み聞かせをこんなふうにと終わろうかな？〉

- \* 静かに余韻を残して終わる。
- \* 本の内容に関連したお話や経験を話したり話し合って終わる。
- \* 読み聞かせたあとの感想画や感想のメモを書かせて終わる。  
(感想文は子どもの状況等をよく考えてから )
- \* 本の内容に関連した絵をかいたり、工作を作ったりして遊んで終わる。
- \* 本の内容に出てきた場所や物を実際に見学(体験)させて終わる。
- \* 本の内容に関連して、読ませたい本の紹介をして終わる。  
(終わり方は子どもの反応の状況で臨機応変に対応することが大切です。)

## さんやそう 7

今回は誰でも知っているごく普通にありふれたハルジオンを取りあげた。野良仕事の帰り道、減反の田圃の中にピンク色の花に暫し足を止めた。普通ならハルジオンのピンクは、ほんのりサクラ色程度であるのに、この群生はカタクリ色のように濃いピンクなのである。周りを見ると、まだ他にもあるが、普通のハルジオンも見られる。アジサイのように土が花色に影響しているとも言い切れない。自然に関心を向け始めると、時として斑入りの植物やアルピノ

(白色)種、様々な変異種に出会うことがある。自分だけの花に出会う喜びは天にも昇るほどうれしいものである。白色シラネアオイ、斑入りフキ、斑入りイタドリ、赤花イチリンソウ、八重咲きニリンソウ、白花ツリフネソウなどなど…。 (沢内村 大石信夫氏 文・写真提供)

### ハルジオン



# 虹の ひらば

沢内村川舟保育所

所長 佐藤 りき子



指導員さんの説明を  
熱心に聞く子どもたち

5月26日、3歳～5歳までの子どもたちは、日常の散歩コースである園舎の周辺から川舟沢方面までを、一部の保護者や自然観察指導員さんたちと一緒に歩き、色々な生物を発見して五感を磨いた半日となりました。

講師の先生から「ステキだな」「なるほど」と思われるお話をお聞きしたので、その一部をお知らせします。

まずは、出発する前のお約束（お話）です。

- \* 大声を出さない。
- \* 何にでもさわらない(ケムシ、ハチ、ウルシ、トゲのある木)
- \* どんどん勝手に行ってしまうこと

そして、最後の「みんなは、見つけるのが先生(講師自身)より上手だから」という言葉が、子どもたちに、よけい探検するという気持ちを奮い起こしたように思いました。

次は、発見隊が始動してすぐ山の神社について、「一分間目を閉じて、心静かにするとどんな音が聞こえてくるかな?」という問いかけでした。

子どもたちから「色々なセミの声」「風」「カエル(2種類)」「小学生の声」「車」「鳥の声」などができました。

そして、色々学習したあとの帰りに、また同じ場所で発問があり最初のときよりも、もっと豊かな発見がありました。

「子どもってすばらしい」「指導することってすばらしい」と思いました。

アオガエル、シュレーゲル、モリアオガエルのちがい、さらには、エゾタンポポ(在来種)とセイヨウタンポポのちがいや「タンポポは花が咲いて、そのあと茎が低く横に伸び、再び種を飛ばすために茎を上を伸ばしていくのだ」など、まるで「人生のすべてを砂場で学んだ」という口バートフルカムの言葉を「人生のすべてを自然の中で学んだ」と置き換

えてもよいような感動的場面でした。

また、絶滅寸前にある植物を見ながら「大事な沢内」というものを感じるとともに、このような自然体験学習は、「センスオブワンダー」の作者レイチェルカーソンのいう環境問題にも関連するのではないかと思いました。

それから、アオダイショウ、ジムグリのヘビを発見し触ってみました。(さすが男性指導者!・・・)

子どもたちの感想も「ヘビにさわられてうれしかった」「つめたかった」など様々でした。

昨今、テレビやゲームなど映像文化の発達で、子どもたちの体感文化の衰退につながるということが言われています。そのために、大人がどう対策をとればよいのか、生命の大切さ、万物が活着していることの大事さ等について実感し、自然に対する心豊かな子どもにするためにも、このような直接体験ができる機会を多くしていきたいと考えています。

「何故」「なるほど」身の回りの不思議なことを五感を通して感ずることや物事を解明した喜びを感ずることなどは、自然を歩き回ることにより得られるものではないでしょうか。

たかが幼児期、されど幼児期、4～5歳までに大人の9割くらいの脳が発達するといわれています。大人とのふれあいが五感を通して刺激されることも証明済みです。体臭や食べ物のおいなど、生きる上で必要な「生活基本臭(40種ほど存在)」の中で、幼児期は「自然界の香りが先」が原則といわれ、自然界の心地よい香りを早い時期にかいでおくことが大切であるといわれています。

園舎からさほど遠くない場所に、生きた教材、変化する教材が転がっています。私たち大人自身にとっても、心豊かになれるひと時でした。

これからも、こんな気持ちを大切に保育に専念できたらと職員一同感じ合いました。

# 特集

# 新聞づくりQ&A

毎号好評を得てきたこのコーナー、今回は特集でお送りします。特にPTA 広報をつくるお母さんたちからの切実な質問に答えてみました。ぜひご活用ください。

Q: PTA 広報委員として、何から勉強したらよいか教えてください。

- A: 1. PTA の目的を勉強すること。  
2. PTA の活動内容を詳しく知ること。  
3. PTA の予算や経費のことも勉強すること。  
4. そして、PTA広報発行の目的を強く意識すること。



- (1) みんなの生活を高め、明るく楽しいPTAをつくる。 (活動性)
- (2) PTA の活動を正しい方向に向ける。高める。 (指導性)
- (3) PTA や学校の出来事を知らせ望ましい人間関係をつくる。(報道性)
- (4) PTA や学校の生活・活動を記録する。(記録性)



Q: PTA 広報づくりの全体の流れについて教えてください。

- A: 1. 自校のPTA 新聞を知る。  
2. 編集日程を決める。  
...まず発行日を決めそこから逆算して作業日を決めるとグー。  
3. テーマを決める。  
...1年通してのテーマがあるとやりやすい。  
4. 取り上げる記事を決める。  
5. ページの割り振りを決める。  
6. 取材・記事づくり  
7. レイアウト  
8. 校正  
...誤字・脱字だけでなく、レイアウトについても見直そう。  
9. 印刷  
10. 発行  
11. 評価・反省  
...感想・反省も含め、みんなで意見を出し合っ  
て次号に生かそう。

Q：新聞づくりのいろいろな用語の意味を教えてください。

- A： ●見出し・・・内容の要点が一目でわかるように、本文の前につけた短い語句のことで、いわばその記事のキャッチコピーです。読者の関心を引くようなものが多いでしょう。普通、活字は本文より大きくします。
- リード・・・見出しの次に出す、内容全体を要約した文章です。前文（まえぶん）ともいいます。記事を取り上げた理由などが書かれる場合もあります。
- レイアウト・・・紙面に文字・挿絵・写真・カットなどを効果的に配置すること。また、その割付。
- 腹切り・・・レイアウトのよくない例の一つで、紙面の端から端までを上下に分断してしまうこと。
- 囲み記事・・・罫線で囲んだ記事で、紙面に安定感を与えます。記事の内容はふつう他の記事から独立したものになります。罫線によって雰囲気はかなり変わります。
- タタミ記事・・・片側を1本（または両側を2本）の罫線で他の部分と区別された記事です。紙を折りたたむように仕切られているため、こう呼ばれます。

Q：PTA 広報らしい紙面にするためにはどんなことに気をつければよいのでしょうか。

A：ひとつは、学校行事だけを追いかけることのないようにすることが大事です。また、依頼原稿だけに頼らず、広報委員自身の文章も入れましょう。

PTA 広報を発行する目的のひとつに、PTA 活動をよりよい方向に導くという役割があります。その具体的な方策として、たとえば、「私たちはこう思う」「こうしたほうがよい」というような「意見記事」を載せることも大切です。

論説や提言、コラムや投書などを、まとめて「意見記事」といいます。

論説や提言を、広報委員以外の人に書いてもらう場合、「どのようなことを、どんな立場で書いてほしいか」をはっきり伝えます。

また、意見記事を書く場合、知っておきたいことは、新聞倫理綱領です。新聞が公器としての役割を果たすためにも、公平・中立が要求されます。

《新聞倫理綱領》

- |     |          |     |          |
|-----|----------|-----|----------|
| 第 1 | 新聞の自由    | 第 5 | 寛容       |
| 第 2 | 報道・評論の限界 | 第 6 | 指導・責任・誤り |
| 第 3 | 評論の態度    | 第 7 | 品格       |
| 第 4 | 公正       |     |          |

# 知的な新聞あそびに大興奮!

## 子どもも ぴぴっとクラブ

小学生(主に2~6年生)を対象に、遊びを通して新聞に親しみ表現力や国語力を身につけてもらおうという趣旨で、ぴぴっと(PPT)研究会が主催しているクラブです。

9月4日(土)平成16年度第3回目の子どもぴぴっとクラブが、北上市生涯学習センターにおいて開催されました。今回も市内の小学生2~6年生が約30名参加。(登録者は42名。)新聞の記事ごとに区切ってパズルにする「ぴぴっとパズルをつくろう」や、新聞からさがした5W1Hの言葉をランダムに入れ替えて楽しむ「作文ゲーム」などで盛り上がりました。



お話を聞く真剣な目!



出来上がったパズルで、楽しそう・・・

友だちが遊びに来たときや、家族のみんな  
でやってみたいと思いました。

(一緒に参加したお母さん)

新聞でいろいろなことができるんだな  
あとと思いました。

(2年生の男子)



これなんかどうかなあ?



2年生だって新聞を読んでいます

# 「もうすりい」にももらったよろこび

島田清子

平成 16 年の新年、いくつになっても正月は楽しいものです。老いたりといえども心躍ります。なんとなく新しい年のことなど考えている頃、田付先生から「もうすりい」へのお誘いをいただきました。私のことですから、ありがたいと思いながらも、どうしようかと迷いました。とにかく、軽い気持ちでと自分に言い聞かせ参加させていただきました。

そして、今までに 3 回参加致しました。

1 回目 先ず皆さんのお話を聞かせていただこうと思いました。

2 回目 新聞のことよりも、今を語るに力をいれてしまいました。反省してます。

3 回目 この会が「もうすりい」であること、「ぴびっと」とのつながりを知りました。

とにかく参加させていただいて、「もうすりい」には、いくつものよろこびがありました。

世代を越えての交流のよろこび

知るよろこび

語るよろこび

回を重ねることで、まだまだたくさんのよろこびを知るでしょう。

最近の駄句です。

鳥帰るカールブッセの山遥か

春愁や誰にも会わぬ道をゆく

考えて生きてるつもりたにし鳴く

どちらかという、独り善がりの中でのものを考えていたように思います。誘っていただき心から感謝しています。ありがとうございました。

(お断り：この文章は 4 月に書いていただいたもので

す。)

新聞を読んで今を語る会(通称「もうすりい」)は、「ちょっと知的な井戸端会議」を合言葉に、複数の新聞を読み比べ、社会情勢から身近な出来事まで、いろいろな事柄について楽しくディスカッションしながら、おたがい刺激しあって自分を高めていくことを願いスタートした会です。ぴびっと(PPT)研究会では、平成 13 年 4 月より「もうすりい」を開始。平成 16 年 9 月現在 42 回を数えます。

毎月第 2 火曜日、10 時から 12 時まで 北上市立黒沢尻北公民館を会場に開催中

参加希望者はどなたでも大歓迎！！

## 秋 だ よ り

### キュウリになれなかったカボチャ

桜が散ってから、1年生が1本ずつキュウリの苗を畑に植えた。ところが、伸びていく葉っぱが1本だけおかしい。なんだかカボチャに似ている。

間違ったかな、いやいやそんなはずはない。たね屋さんで選んだ高級品だ。でも「カボチャと接ぎ木」と書いてあった。芽を摘む必要があったのだろうか。

カボチャでも育てることにし、別な種類のキュウリの苗を買って植え直した。

初夏から夏にかけ、キュウリをたくさん収穫した。丸かじりやサラダ作りなどで、たっぷり味わった。

気になるカボチャは、四方八方につるが広がり畑を占領していく。小さい実が次々とできかけてはしほむ。やはり、キュウリになれなかったカボチャは実にならないのか、とあきらめかけた。

ところが、そんな中で確実に実が膨らんでいくものがあった。だんだんカボチャらしくなっていく。なんだ、ちゃんとできるんだ。間違っても放っておいてもどれかは実を結ぶなんて、なんだか我が家の子育てのようでおかしかった。

子どもたちは、おまけのカボチャも楽しみにしていた。「いっぱい食べられるね。」「スープがいいな。」「ケーキもできるよ。」「いつ作るの?」とワクワク。

2学期になり、キュウリが終わりを告げる頃、カボチャの実が硬くなってきた。M君が「爪を立てて傷がつかなかったら取っていいんだよ。おばあちゃんが言った。」と教えてくれた。Nちゃんも「そうだよ。あっ、これはもういい。あれはまだ。」と調べてくれる。北上産はまだ店に並んでいないので不安だったが、助言により熟したらしい順に収穫した。

後で本を借りて読んだら、間引きだの、子づるをかき取るだの、実を上に向かせるだのと、カボチャにも世話がほしかったらしい。しかし、既に遅い。

さて、どんな料理にしようか。レパートリーが少ないので本やインターネットで探し、3品にした。試作も好評だったので、1年用レシピを作った。

いよいよ9月16日、「カボチャのキッシュ」を作った。子どもたちは大張り切りでがんばった。収穫が早すぎたようで水っぽかったが、何とか出来た。どの子も「おいしい。」と満足だった。少しだが、2年生へのおすそ分けや家へのおみやげもできた。

ふと見た9月19日の読売新聞に、陸前高田市の自根<sup>じこん</sup>キュウリの売り込みのことが載っていた。そして「一般に多く出回っているキュウリは、カボチャの苗木に接ぎ木したもので、粉が吹かず、つやがある。」とあった。北上でも接ぎ木でないものを売っていたが、あれも自根キュウリというのだろうか。

次回の「カボチャとりんごのサラダ」は、大量に作って他の学年にもあげる予定だ。(M子)

このコーナーは会員が最近感じたこと・出来事などを交代で担当します。



### 編集後記

暑い夏・厳しい残暑・台風の上陸等々、何かと天気情報が気になる夏が終わり、いつの間にか実りの秋を迎えました。

会報「びびっと」も16号発行となり、これからも紙面の充実を目指して日々努力していきたいと思っています。

ご意見ご感想をお寄せください。

### びびっと(PPT)研究会

〒024-0012

岩手県北上市常盤台1-14-12

Tel・Fax 0197-64-0758

E-mail: [agi@titan.ocn.ne.jp](mailto:agi@titan.ocn.ne.jp)

ホームページ: [www.npo.2000.net/~ppt/](http://www.npo.2000.net/~ppt/)